

入院診療計画書

川崎病の治療を受けられる

()様へ

2部印刷
1部：患者ファイル
1部：患者様用

病名
(MDC6桁コード)

川崎病
(150070 川崎病)

年齢

生年月日:

薬剤師

症状

受持看護師

病棟

管理栄養士

	1日目	2～3日目	4～5日目	6～7日目
日 付	月 日	月 日 ～ 月 日	月 日 ～ 月 日	月 日 ～ 月 日
目 標	治療(手術・検査等)の流れについて理解できる 脈が速くなる、血圧が下がる等、免疫グロブリンによる副作用がみられない 医師の指示があるときアスピリンが飲める	免疫グロブリンによる副作用がみられない アスピリンが飲める 合併症を起こさない 家族が入院の必要性を理解することができる	身体が痛いときや気分が悪いときなどに訴えることができる 合併症を起こさず入院生活を過ごすことができる 家族が入院の必要性を理解することができる 37.5℃以上の発熱がない	合併症を起こさず入院生活を過ごすことができる 家族が退院後の注意事項や生活について理解できる 川崎病の症状が良くなる 冠動脈障害がない
食 事	食事について制限はありません(食事形態はご希望に合わせて変更できます)  			
安静度	トイレ歩行以外はベッド上で安静です 		発熱(37.5℃以上)なければ、主治医確認後、病棟内・プレイルームの範囲で活動ができます	点滴の終了後、院内は自由です 院外に用事があるときは看護師に声をかけてください
清 潔	看護師が身体を拭きます		熱がなければシャワー浴ができます	点滴の終了後、熱がなければ入浴ができます
排 泄	点滴中は、尿量測定を看護師がおこないます 点滴終了後は、尿便の回数を記入してください			
点 滴 注 射	持続点滴をします 免疫グロブリンを投与します(解熱が見られなかった場合、免疫グロブリンを再投与します) 免疫グロブリンは血管外に漏れると組織の損傷を起こす事があります 点滴のはれや痛みがある時は、すぐに看護師にお知らせください		状態が安定すれば点滴を終了します 	
検 査	血液検査、心臓超音波検査、心電図検査、レントゲンの撮影を行います 治療の経過で、検査が追加になる場合があります 身長、体重測定をします 体温、血圧を4回/日測ります 		体温を3回/日測ります	
処 置	発熱時、原則はクーリング(氷枕等)を行います			
内 服	主治医の指示がある場合、アスピリンを内服します 1日3回(治療経過で減量していきます) ※口が乾燥したり、皮が剥けるようであれば軟膏を処方できます 看護師に声をかけてください 		アスピリンを内服しているため、出血しやすい状態です 鼻血が出た場合、鼻の上の方を圧迫して対応してください 圧迫時間の目安は15分です 	
説 明	医師から治療について説明をおこないます 看護師より入院について説明(オリエンテーション)をおこないます 薬剤師からお薬について説明をします 入院診療計画書・同意書は了解されたら署名・捺印して提出してください 		病状や血液検査結果については、必要に応じて医師が説明します	医師から必要に応じて、病状、血液検査の結果について説明があります 看護師が退院後の注意点について説明します 薬剤師がお薬について説明します

※上記内容は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることもありますのでご了承ください

※ご質問等ございましたら気軽にスタッフへ声を掛けてください。

◇総合的な機能評価◇

☒ 評価対象外

☐ 日常生活動作

☐ 問題なし

☐ 要経過観察

☐ 認知機能

☐ 問題なし

☐ 要経過観察

☐ 意欲

☐ 問題なし

☐ 要経過観察

※ 特別な栄養管理の必要性

☒ 有

主治医

☐ 無

私は、上記診療行為について、主治医から十分な説明を受けました。

年 月 日

患者 又は 親権者・親族等サイン

(続柄)

高知赤十字病院 小児科 09-001-P0(患者用)